

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇7月20日～

米国とイランが連日攻撃を繰り返しているため先行き不透明感が強まっています。
株価は高値圏で乱高下しており、1日の値幅が大きく、不安定な動きになっています。
半導体・AIバブルがいよいよ崩壊という話もあり、株価の動きには注意したいです。
リスク回避的な動きが強まると為替相場にも影響が出る可能性があります。
新興国通貨はリスク回避の影響を受けやすく、クロス円は株と連動して動くことも多いため為替相場以外のマーケットの動きもよく見ておく必要があります。
イランがホルムズ海峡を閉鎖したことで、再び原油価格が上昇しています。
1バレル80ドルを超えてきましたが、どこまで上昇するかはまだわかりません。
さらに、ホルムズ海峡だけでなく、イランがフーシー派(イエメンの反政府勢力)に紅海の封鎖を要請したという話も出てきています。経済への影響が懸念されます。
米国がイランの電力インフラを攻撃した場合、紅海も封鎖する準備をしているようです。
ここが通れなくなると物流に大きな影響が出ます。
特に、アジアとヨーロッパは喜望峰(南アフリカ)を通るルートしかなくなり、輸送コストが上がるだけでなく、日数もかかることになり、インフレ(物価高)がさらに加速していきそうです。
中東リスクと株のバブル崩壊が同時に起これば、マーケットも大打撃を受けるかもしれません。
8月前半やお盆あたりは株の暴落が起こりやすい時期です。
2024年には7月後半から8月初めに日経平均が大暴落しました。
この時期はトレーダーが夏休みで取引が減るため値動きが荒くなりやすいので注意がいります。
米国のインフレは最近の指標では落ち着いていますが、再び悪化していくかもしれません。
今のところ米国は、しばらく金利据え置き、日本も今月は利上げに動かないという予想が多く、円安トレンドがいつまで続くのか見ていきたいです。
今のドル/円レートは、40年前の1986年頃のレートです。
1985年9月にプラザ合意があり、急激に円高が進行していた時期です。
86年の年初は200円程度のレートだったドル/円は、年末にかけて160円あたりまで急激に下がっていききました。
テクニカルで見るとほとんど止まらずに一方向に落ちていったため、165円を超えてくると200円あたりまで明確な抵抗がありません。
高市政権は積極財政を推し進めたいようですが、マーケットが不安定になるたびにトーンダウンしてきています。
日銀や政府関係者の発言にも気をつけながらトレードしていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

ドル／円は高値圏で動きが少ない状態が続いています。

162円台後半で何度も頭打ちとなり、163円トライの動きはおさえられています。

7月1日高値の162.8円あたりを超えてくる動きが出るかに注目したいです。

ここを超えると165円あたりまで上昇する可能性も出てきます。

下値は162円を割り込むと161.6円、161.3円あたりのサポートで下げ止まるかです。

161.2円を割り込むと7月安値の160.5円あたりにサポートがあります。

160円を維持できれば相場は強く、下がっても買いが入りやすい状況です。

まずは、161－163円のどちらにブレイクするかに注目したいです。

<気になるクロス円>

クロス円は動きが読みにくく、それぞれのペアのチャートをしっかり確認することが大事です。

ユーロは4月末の介入前の水準(187円台)まで戻ってきません。

186円台では何度も頭打ちとなっています。

186.3円を超えれば187円台まで上昇しそうですが、ユーロ／ドルが週足でも下さげているため、上昇より下落リスクが高まってくる可能性もあります。

ポンドやNZドルは今月に入ってから上昇が続いているので、上昇が続いている間は買いのタイミングを狙っていきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では6月貿易統計、6月全国消費者物価指数などがあります。

米国では6月景気先行指標総合指数、前週分新規失業保険申請件数、7月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、6月新築住宅販売件数などの発表があります。

欧州ではユーロ圏とドイツで7月ZEW景況感調査、7月製造業・サービス業PMI(速報値)、ユーロ圏でECB(欧州中央銀行)政策金利発表、ラガルド・ECB総裁定例会見などがあります。

ほかには、南アフリカで政策金利、カナダと英国で6月消費者物価指数の発表などがあります。